

## 「過酷な先生達」

林 隆司

近年わが国では、うつ病などの精神疾患による教員の休職が急増している、文部科学省（以下文科省）によると、一昨年度（平成17年度）に精神性疾患を原因に休職した公立学校の教員は4178人で過去最高となり、前年度（平成16年度）から一気に619人増え、13年連続の増加となった。また、教員の病気休職者に占める、精神疾患での休職の割合は実に59.5%に登るといふ。文科省は原因として「保護者や子供、同僚との人間関係に悩む教員が増えている。」述べ、更に東京都教職員互助会「三楽病院」の中島一憲・精神神経科部長は「学校は今、慢性疲労状態。肉体的な疲れにストレスが加わり、だれもがうつ状態になりかねない」と、教員の置かれている過酷な状況を語っている。

私の友人にも数人教員がいるので彼らに事情を聞くと、先に述べられている「肉体的疲れ」に関しては授業や学校行事、クラブ活動などの業務以外に、事務や諸問題に対処するため家庭訪問や学校での放課後の時間外指導などのオーバーワークが原因であるという。不登校児などに対応するための家庭訪問などはほぼ毎日、帰宅が午後10時をまわるのは日常茶飯事であるという。また、ストレスに関しては、最近報道にある理不尽な要求を突きつけ、教育現場を混乱させる保護者（いわゆるモンスターペアレント）への対応や、先ほど述べたオーバーワーク、更に文科省も述べている同僚との関係などの具体的な原因を聞くことが出来た。

これまでの話で教員の精神的疾患による休職が増えている原因としては、「肉体的要因」と「精神的要因」がある事がおわかりいただけたと思う、では、この要因を解消する方法を考えてみたい、まず、「肉体的要因」であるオーバーワークの解消法としては、まず、現在1校につき1人ないし2人しかいない事務専門職員を大幅に増員する。こうする事によって教員を事務から解放できる。また、学校カウンセラーも増員し家庭訪問や時間外指導については、学校カウンセラーとの連携を図ることによって仕事を分担することが出来る。つまり現在教師が抱えている膨大な業務を他の専門家と分業することによって、肉体的負担を軽減する訳である。次に「精神的要因」要因についてはまずは。モンスターペアレント対策としては、先ごろ文科省が地域ごとに外部のカウンセラーや弁護士らによる協力体制を確立し、学校にかかる負担を軽減するとさせる支援策を検討に入ったが、この方向でよいと思う。即ちこれも分業である。また、精神的疾患においては早期発見や治療も重要となってくる。教員に対する精神面での定期健康診断の実施、また、先生のためのカウンセリングなど、業務の軽減と共に、過酷な状況におかれる機会の多い先生達の「こころ」をサポートする体制の確立が肝要である。

### 参考文献

※ 2006年12月16日 読売新聞

※ 2007年7月9日 産経新聞